

# 道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



距離の短い名古屋港は、人気のスタート場所。さて、みんなどんな旅になるのかな？



道の駅では元気な女性ライダーがたくさん遭遇。こちらは大阪のトライアンフ乗り。



郡上市大和町にある「道の駅 古今伝授の里やまと」。足湯とベンチでまったり。

「道、愛しすぎ。バイクライダーに会うたびに思いですが、5月半ばに開催された日本最大級のツーリングイベント「SSTR」に参加し、改めてそれを感じました。日の出と共に日本の東海岸の何処かをスタートし、日の入りまで石川県の千里浜なぎさドライブウェイへゴールする「サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー」。もちろんレースではなく、交通法規を守りながらそれぞれがルートを決めて走る、「じぶん旅」。昔でいうなら同時出発のお伊勢参りでしょか。幾つか決められた宿場を通過するだけで、人数も足(馬)なのか籠(馬)なのか、スタート地点もお任せ。関門時間を目指すものの、遅れたらお参りやおかけ横丁が翌日になるくらいゆるゆるの感じがいい。それが綿密な計画を立て、

今年5月の入りの18:57を目標として、全国46都道府県の2500人もライダーが千里浜を目指しました。私は松本から名古屋港に前日入りし、4:45の日の出を見てから出発。800ccのトライアンフは、とても素直でストレスフリーの2気筒だし、お供には地元松本市の上条さんが買って出てくれ、懸念ゼロ。ただし彼はSSTRでも人気のスーパーカブ(1100cc)。280キロを高速だと4時間ですが、下道だと休憩なしでも6時間半。15時到着予想でしたが、下道という時点で珍道中は決まっていました。以下は私のメモから。

・名古屋港(集まってきたバイクは、ほとんど見30台)能登半島の先端までいく原付さんは早めにスタート。私たちは松本の渡邊さんも加わって、3台(下道へ)の駅「美濃にわか茶屋」へ。ちょうど店頭販売が運び入れるので、パンを食べたり、スタンプ押ししたり。名古屋港で見かけたバイクもちらほらいました。ここでダックス(70cc)の丹羽さんと、来年世界を走るという古川さん、お初の鈴木さんが加わって、なんとなくチーム凸凹が誕生。道の駅「美作」・古今伝授の

里やまと、「清流の里しろ」とり、「白鳥」・大目岳、「飛騨白鳥」・白川郷」に寄りつづつ156号を一路北上しました。かつて何度も通った懐かしい道や町、いくつもの思い出が溢れ、胸が熱くなります。さて、最初はスタンブッシュなら急ぎ足でゴールへ向かうつもりでしたが、足湯に浸かったあたりから全員が超ゆるゆるモードに。気がついていきました。期待で細胞がワクワクしっぱなし。64キロ辺りで「うだつ」の町並み眺めて道の駅「美濃にわか茶屋」へ。ちょうど店頭販売が運び入れるので、パンを食べたり、スタンプ押ししたり。名古屋港で見かけたバイクもちらほらいました。ここでダックス(70cc)の丹羽さんと、来年世界を走るという古川さん、お初の鈴木さんが加わって、なんとなくチーム凸凹が誕生。道の駅「美作」・古今伝授の

その時がっくり感。けれど、たまたま奇った最後の道の駅で、復活して追いかけてきた丹羽さんと奇跡の再会となりました。西日の中で喜び合うチーム凸凹。たった11時間半の旅なのに、一ヶ月にも一年にも感じました。たくさん言葉を交わす訳ではないのに、暑い中ひたすら風をきいて走るのは理屈抜きで楽しく、同じ景色を見たライダー同士は、分けへたけなく仲間になってしまいます。道の駅で出会ったライダーもほとんど増えたいき、感動でちょっと震えました。

主催者の風間深志さん(冒険家のメッセージ)・朝日に共に静かに走り出してください。心を風の中に体を自然に溶かし、マシンと語り合い、ゴールを目指してください。一生に一度きりです。記憶に刻みつけような旅をここで経験してください。思い出す。そして、16:15、待ち受ける千里浜の海岸に、チーム凸凹揃ってゴール。お天気でトラアルも全く全てが順調だった。道を計画し、常に先導してくれた上条さんも、「この展開は想定外」と満足気。1年分くらい笑ったこの下道ならではの寄り道ツーリング、しっかりと心のノートに綴りました。次回はSSTRゴールから帰宅までです。

ハット 思い出した

マリカーと言われる公道を走るゴーカートが7、8台連なって、走りゆくのを見ていただけで冷や冷やして、事故が起きた場合に巻き込まれない内、安全な規制をするべきです。道路は一部の人たちの遊び場ではありません。法律に違反してはいけません。安全を考えると、まず交通の安全を考えたのが最も重要ではないのかな。さて、六月は梅雨時で雨

多多く、田植の時期なのが多いが、雨が少なく、水不足で暑すぎればこれも困る。水無月と書きますが、水の無いと言ったことではなく、儀式がおこなわれていた。私は神頼みも言いたくはない。信用していません。が、雨乞いに限っては、除外しては人の知恵。人が作ったルール。つまり法律は何のためなのか。それは当然幸せな暮らしのために、理不尽を正当化するための道具ではないのです。・が、月末は夏越の祓(なごし)のほらえいと言って、半年間の厄を落として、お盆を迎え、後の半年を過ごしましょうと言います。一

満開のアジサイもさることながら、「椎野あじさいロード」の魅力は美しい里山の風景。たつぷりと水を貯えた水田とアジサイのコントラストは、日本の原風景を思い起こさせてくれます。同じ時期、美郷町では豊作を祈願する御田祭も行われます。この穏やかな光景が未来へと伝わることを願っています。(写真提供:みやざき観光コンベンション協会)

★三好礼子の★

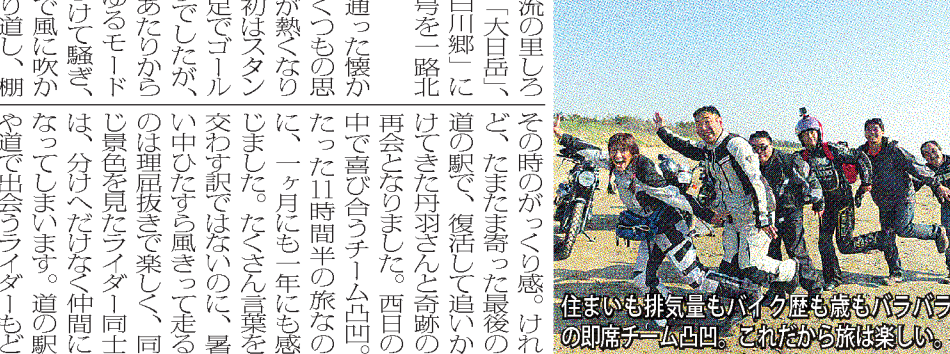
ナチュラル・ロード

「道、愛しすぎ。バイクライダーに会うたびに思いですが、5月半ばに開催された日本最大級のツーリングイベント「SSTR」に参加し、改めてそれを感じました。日の出と共に日本の東海岸の何処かをスタートし、日の入りまで石川県の千里浜なぎさドライブウェイへゴールする「サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー」。もちろんレースではなく、交通法規を守りながらそれぞれがルートを決めて走る、「じぶん旅」。昔でいうなら同時出発のお伊勢参りでしょか。幾つか決められた宿場を通過するだけで、人数も足(馬)なのか籠(馬)なのか、スタート地点もお任せ。関門時間を目指すものの、遅れたらお参りやおかけ横丁が翌日になるくらいゆるゆるの感じがいい。それが綿密な計画を立て、

三好礼子  
エッセイスト・元国際リスト  
～http://www.fairytale.jp/～



最後の先頭は私が担当。もったいなくてゴールゲートに入りたくなかった。



住まいも排気量もバイク歴も歳もバラバラの即席チーム凸凹。これだから旅は楽しい。

九州の散歩道

8軒から始まった「あじさいロード」

フリージャーナリスト 湯浅玲子

梅雨時に花を咲かせるアジサイは古くから日本で愛されてきた花。最古の和歌集『万葉集』にも「阿豆佐為」という字が当てられて登場します。原産地は日本で、山野に咲くカクアジサイが品種改良されて世界中に広がりました。

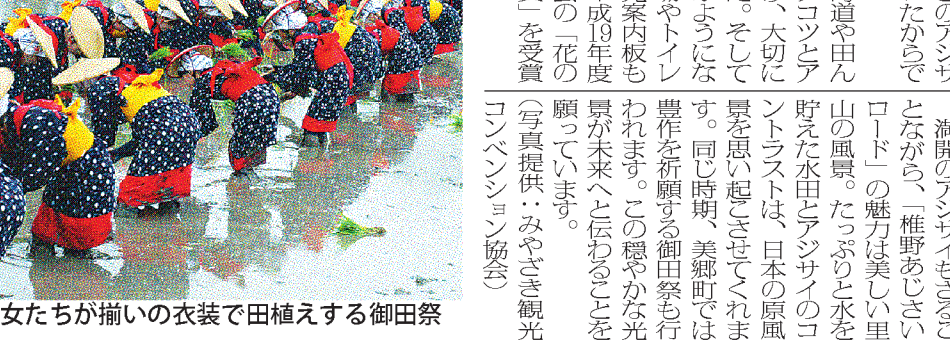
白から青、紫、ピンクや赤と色を変えていくアジサイは「七変化」あるいは「八仙花」とも呼ばれます。アジサイの花がさまざまに色を変える秘密は、育つ土壌の酸性度にあるそうです。アジサイの花にはアントシアニンの一種が含まれているのですが、土中に含まれるアルミニウムと結合すると青色を発色します。酸性土壌にはアルミニウムがよ

6～7月は各地のアジサイの名所に多くの人が訪れますが、九州にもアジサイの観光スポットがいろいろあります。今回ご紹介したのは宮崎県美郷町(みやざとちょう)にある「椎野あじさいロード」です。全長7キロにわたって約3万本のアジサイが咲き誇り、周辺の素朴な田園風景もあって近年多くの観光客を集めるようになってきました。

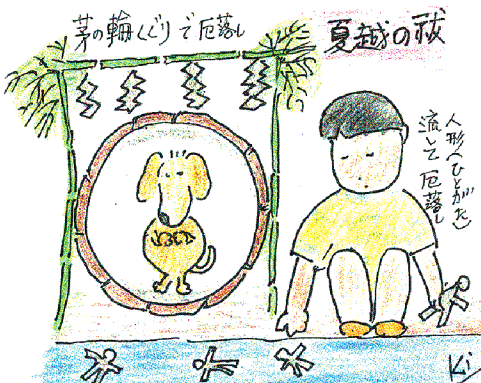
この「椎野あじさいロード」は、たった8戸14人の



山里の美しい棚田を背景に咲き誇るアジサイ



早乙女たちが揃いの衣装で田植えする御田祭



夏越の祓

雨は降らなければ困る、降りすぎても困る。日差しがなければ困る、ありすぎ